

30 1 2 3 4 5 6 7 8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50

本居大人著

117
461

詞林もとまく

泣華

八書墨櫻

言葉のやちゆ多序

ウタ

奇う美かかく人をつむけあり。まぐて
すくまみじよ。うねぞしよ。まみじよ。や
詞のまふだわきづく。そはつすらの書
じきのよよ。歌とまき。すうふ心と、ぬ
やふあくまよ。ておまほり。ううう。辞乃
みだらうあど。その世のわづひきぬ乃

さうふらはま。やじうもん。さかなど。さく。あ
あぢくへちくで。えりくとくとくで。
さう。うきのゆの掌ひやすとく。いわゆる五十連
の、魚のたてねきよとく。さう。考ぶる事。
さく。うの五十連の青とつあ。八乃口上案
山音のゆう梨とにくとて。たくとくとく
れまにく。よくゆよまのよまく。ゆきこや。

たしてあしあとバ。詩のちかくすくよ
つち勢。ヨロヅ ウツロ。考へうちうむるに。
一やくとゆうどくとくとく。うへりやくと
くおもわなうとく。うはとふをほのと
う。が耶ばりひのじうとくとく。言の
ひじみ。云れまき。自他のつひぎ
など。まことの控律れきぢよじよとく。

わくよまへた。やうよ。と。かくも。の。すれ。言。わたり
れ。よ。さき。用。ふ。あふ。理。言。の。く。け。ゆ。
サトビコトバ
寝。下。か。ひ。え。ぐ。れ。ま。ざ。の。一。そ。ち。あ。辞
ヤチマタ
う。る。け。き。ば。八。巷。ふ。り。き。ま。ア。き。く。る。詞
ヒトキダ
れ。活。用。の。四。匁。よ。わ。り。一。匁。よ。う。き。正。中。の。二
フタキタ
便。ち。き。カ。二。匁。な。ど。え。四。種。小。う。ひ。く。も。む。
フタ
も。ほ。此。便。よ。う。奪。考。一。け。き。も。ざ。

る。まよ。やめてゐ。假 カ 宮 ミ の書。まふ
きの書。まふ。あれど、昌考へあつて、
今、ちがひある。くとも取らぬと。み
言成のうべきこと事。まもどす
あきらかに見えなか。そ
思ひばらば。うそば、鉢巻ノヤノウレ え人マナゴ の真子
モトヲリ、ウシ
アホ幸ハルニハノキミ。春庭君ヨロヅ まよ

考へやうと。此二巻よあらわし
出でまし。タマキ
あれ。こ種で一み。立身の道
ある。立ちゆきにまづかたがく
あらう。信えよ。うとおれやう
ちを信えよ。うとおれやう
五日十三日。庵^{アリ}ハリ^ヲ
植ね育て。

詞八衢上

本居春庭著

言ふ事なり
かひれよのやうてひきとてすまほのほじはざぬよよりとことせ
繁ううきよあらがひけうきもとすまなむくちがの
えやとしわうちよばんごとゆをやうりよつりがまき
ゆゑなくまゆりむかうや人のうゑふぢとせとるた
思ひのくらくと信くまゆあらゆううもあれと
ちくよしむくまゆびやまよたまゆくあらゆく
きさみほよかわだにかもうやまくまゆくあらゆく

ばかうそあやうまく今れ幸ふとおすぐうじゆをつもと
ちくらりかたなぐみうらやまううにとおれこきわうすそ
おぬきこそがまよのむかすあはざ一文字モジ
かまごみまごよくなどち無くおちろうにねむいあを
がふしおハハハな草やくす人のひとめだつわよ
まで用ひたまうあやかなかつては後の世とおりくち
あらふまゆきほほるこよみあはくなりぬるをせ
見づけん人をなくさかあがほと書えりとおもよに
つまく美だきあらすじをかねでわいくな樂きにこれ
のまちとれまむじしんハツヤア内乃たへくふまき

とよかびくふかくあひててとおむきを金きわざぢりといふ
ゆきおもひたまうじがなうげふのミサとひをぐしてね
あやまれちむねききつてやう様を秋よくよみ文章よ
くおくる人ちねのきよくこうぬはなききむねだう
りもかやあまごはだくかきくたがる、とくききくまく
おもひくまきひのきがはなとだくくへあがうもくを
かくあやまれどとおほきを今おれんとおけよしも
くわうまくつと詞のハ傳うもおだまくとハわが
お祭をさせ活がふよとおとせうおもじきゆくも乃

やあもバ道ふなづくてかくちあはるよなぞ只ひ人よ
たゞえさまがくとあれ

活字にて下モおもくはりかぐなる中ふ四種の活字事下
キモもまたたゞひへ内ホカひろくつもおもてこらふなまぶ
ほすき他ホカゆき形次やはな志あきあくまよあきく
ともとく詞のみなりよの解乃もとてちどりよくせきはと
せぞく詞ホカやまとわけりておおき志く志きく
ひあく繁ホカわねまき種ホカもととなホカ加行のとれ活字ホカの解
のりふかくもとくたゞひ乃もと繁ホカおきれハれせまじを四種の

まくひあらへども、あらうへよひ、じふに又四種三種あるひ三柱
なまきの法ありて、つとけぐらうさふあらがひて、さみ河も
そむねやかへ続、ハ先へれ、四種乃至すれをりとすまきて、くま
くまのうなど、うそも一、次く小まよ、く書ちよ、

○四役の主にシテハ四役の活一役乃活中二役の活下二役の活
シ四つから活の三つハ次ツツゴーリテシトアリモナヨリアリボウ
シタガル事モ事とウムラツシヨヌ目ナシモカタヨ繫行クレハ今
サカニ歎キテアリ下モ唐くシテシムトマツナリ

ちで次と西候ふわや。むかわく。あけ。おまむか。もともせんを
えくとつまう。は内が、すまくつまう。

○一役の法事ハ。づくづき。あるまじれなど。第二の音一役のま
射アサシ着アタフタ
ても。ちくとつよつも。さるこをのる。れハ言をえて。法をあさる
ソノクダリ
こそ某行の音ふきか。ちなり。そそは。よだよままで。一まよそ
ハ。まよそより外。あぐれ。ハ。まよほ。葉。つまよそ。あ

○中二板の音三はきくぐるぐをちつづるづとと中二の音三の
ま二板かでわざれくねるねくとさぢさびさびるさびとなど
そだくさくさくさくふくれつるつる乃るれハ二板の音の有る

○下二段の派とくべつ。一けせもふもきせや、方三段者す
四乃音あ二段にてく。うくうくとしけゆそひをくる見よ
れ。是せあぐもくとく。うくもくもくそれのうそひふく
エふく。うくあく。うくうくうく

○又これら四種のものうちまぎれむるにあらかじめ防がれてゐるが、
うもとを切小麥根ごろはんをそぞり内へ行の國小むせをすくふ
公私不くふ

○四種の活の圖並受る處をも

活の段二中	活の段一	活の段四
試意落起	居見予似着射	釣住逢打押飽
みひちき	みみひにき	らまはなたさか
ぬてぞ	きひぬトでぞ	きひぬトでぞ
けむ	りみひち去き	
けむ	13けりて	13けりて
けむ	13ぬふきつ	13ぬふきつ
ひふつく	みみみきみ	じじみつすく
うぎき	うやうぎき	うやうぎき
ひづる	うやうぎき	うやうぎき
かまか	うとかまか	うとかまか
ひと	うとひと	うとひと
せ	うとせ	うとせ

此處四段の活ニ一段の活ニハ切るニ続くことより
て、二三を中二段の活下ニ段の活ホテハボカセ

活の段ニ下	活の段ニ上
飢枯消譽辯兼捨瘦受得	率舊老
ゑれえめへねてせけえ	ゑりい
きひぬトでぞ	きむ
13けりて	13
13ぬふきつ	13ぬ
うるゆむみぬつをくう	うるゆ
どやうべき	どや
うるゆちうゆうゆうゆう	うるゆ
うとふまか	うと
うとひと	うと
せ	じ

受る處と

此處一段の活中ニ段の活下ニ段の活ハアと四段の活アハツホツレ

○そ儀て右乃活詞ダラキコトより受るてふとぞれつゝむやめどこもく
ハドアリバそれ大低をあげたるなり又やならやぞれぞくゆ。や
エニゆ。やえ。なぞ。きよ。來。くよ。か。う。お。ま。き。く。か。ち。り
さ。う。お。な。来。あ。ど。ゆ。か。う。う。く。ふ。と。あ。ぐ。な。ま。び。ハ
ー。き。れ。バ。後。の。せ。ざ。か。たり

○四段乃活ア ナ ヤ ウ の四引小ハナ 第一の音かきたはまら
ハキルまでハツモく語をふくばたゞハ。あ。う。む。あ。う。バ。あ。う。ド。か。け。ム
カ。キ。ド。ム。シ。う。ビ。う。ド。ト。な。ぞ。を。あ。か。カ。シ。う。モ。の。に
てハ活とちくぶありその下ふうくれてふまほ乃ひ。ド。ト。ウ。
活とちくぶあり後き四段の三たきふかづれうして一段の活中

二段の活下二段乃活やき、れ音とちくぶにてす。一の音
一の音うちうくるてにまきをぞでトぬひま。キ。モ。ア。リ。オ。ニ。の
音。キ。モ。チ。ヒ。ミ。モ。チ。用。言。ヘ。低。く。あ。や。葉。な。う。く。る。て。ふ。き。モ
キ。て。つ。け。と。き。き。ひ。な。バ。ぬ。る。つ。る。一。志。の。を。ギ。歌。ア。オ。三。乃。ま
く。モ。つ。ふ。む。る。と。切。る。詞。セ。辞。言。ヘ。低。く。活。三。歌。ア。リ。ま。る。て。ふ
と。モ。二。つ。と。も。う。ひ。て。切。る。か。ま。や。う。る。て。に。ま。き。を。を。ら。キ
だ。き。ら。一。こ。さ。も。続。く。こ。ま。う。う。れ。ふ。を。と。ハ。か。ひ。ま。す。和
と。ち。も。が。う。ま。や。せ。れ。音。け。せ。て。へ。め。と。ハ。ソ。れ。活。詞。ア。リ。受。て
ふ。き。モ。ハ。を。や。ざ。ど。き。な。ぞ。あ。

○一段乃活 ハ サ タ ヤ ラ の四引小ハナ と。の。活。ハ。た。オ。ニ。音。ア

ひきふひみおのまほの法やく四段の法のオ一の音ニのまごり
二つり法をかゆく用ひへばくことはかりうるてにまくをそのうち
をゆすらすこも圓づゞやしきけ音あるもととぞたるハ四段
のまくまくはオ三の音をわがド一切を調と務めへがくくとく
てうくるてとを二つともうこも四段の法れオ四の音と木子ドくちのむとひき
とぞたる四段の法れオ四の音と木子ドくちのむとひき
うくほて木子とがゆるハ後のりづやかにゆるくハ萬葉集十五春
くあきと木子とがゆるハ後のりづやかにゆるくハ萬葉集十五春
野乃うきにそ。良思丈古今集ふ在とや。六帖六ふ
ねざえのまきと似だき後撰集よあくと信を人をあうド那

大佐日記余仙度々なぐオ二の音。ひきふひみわう切を絆をう
てふをも伏手ひたりこのやうだタ

○中二段の法ハカハな二行やうな一オ二の音。きちひみモハ
カハ四段乃とすたれオ一の音と二の音との法をかゆて用言へば
くも紫なり夢てふをはき二つともね用ひたる事一段乃法上円ド
第三の音くつぶむゆるうハ四段の法をまくはオ三の音の三脚絆のく
ふてうくるてふをほそその切をかくの君もらもびきらう。も
などと用ひれあきまくられ音あるもととぞへなるハ四段のもとたれ
オ三の音は併言へがく言葉のかへてうくるてふをもそくめかく
と用ひてかなすがふをよりあがむもまれれめどときへたる四段

の活乃オ四のき乃活モハシテ
トモヘジビヤクミムテホモモ

○下二段乃は六十音あやぐくらす第三れもうくそつぬふむゆる。
う、四段のまなづきれ才三の音は切れどもせん乃はくふれがふてえ
るてふをえきみくともちよるわや葉きされ音ふほもとそくへてつむ
ろハセ便のえきれ才三のまの游言へほく詔のかくしてうるてふ
きえもそれくらすとれ候用するなりまくきーをそへたれハ四段
乃もすきれ才四の音せねかくそそのもまびきやせまくとうく
ゆてよとまくそくはふやかく才四のまえけせてねへめえをゑへ四
段のもとまきれ才一のまや才二のまをとかゆく用えへほく内モ

○さて仰くうへておとおしは國あおぞらをやつてやうきまくじ
りふとを益のよきわむよ人もある。倭は種をまぐてうれにてを
はなす乃で、横木をほくちもとへたゞく。
ゆき四種の活肉をわづちあきよこれうへてふきはばむてまぶしれ
う肝要なねちよくかきよとありむづなりあきをさきてしめそ
きれてよきんを第一の肴かさだえまさらよあきよれハ四段のよ
らによきわあづぐく第二乃もへきちかひみどるよりうへか八段
のりすにまきて中二段の活肉を紫であづぐく半四枚まえけせてねへ

ええと。おまけに下二段の活句をちうがまなかりのすもまで
おのづくられてふきまとよりそぞれとさげられまつたあ
そはまよざれとつる所く又果をよく見てあそべ
○続く例をそのや何れ續びかくことわらみ辞テヌふあるやまきハ切
て下へつかげつたり四段のまなづきれお三のまくをつふむるハ切る
まきとわぶく詞とをかゆくゆく。わむかわれ。あどひくえ
えりまきゆく。あせねふ人。わむれりあつてじゆきをそれ
一候のすまづれを二れ音いきふひみわふか。あ
切ゆく。まきとせとをかゆく。きる。見る。あがつてき
まゆく。又まち衣えれ花ふどつしてほく。まゆもまゆあり
着見

中二段の活を下二段の活へ取扱ひもとされ第三の音うぐやづぬ
ふむゆるうなぐもぐふよあくはぐれあいひてへ切きうどむ
ゆそほうじもぐう月日あら二段あくれ水なが
はもととくてつもんびもくはかざれうちもがそ繰くこも繁と
よへ辞言へほくとつあせたゞ一用言へがくくへもすれにを別
かくちもうちゅゑにてほく詔。とはつもんびうら用言へほく
ゑもへまづ四段の活一段乃活中二段の活かくへオニの者いきあち
ふひみへアめよりゆき。ゆきがくひあまもさなれりもぐもさき
あるええみわづふひ下二段乃もだきゆかれてえ。
けせぢねへええをゑとくうかぢう玉を奉るなぐれ。玉を奉るなぐれえ。

み素用文へ附けたるなり

○せふつまゆり下かの角へ四限の法事へ第四に育けせすへめきと
ちゆまにてまけ。わせ。わすへあまつひてまぬも下かの内やあれ
と一段の活かくへキ二の音。いきにいみわふよもどそくて拾遺集
やくまみがゑの衣。まよ君古今集。山のさくをあそばせ
見よ精詮。記小もじふへむわよそしもむきひ。この毛ぞひ中二
ほのちくさも身二せまきちひみ。アヌヨよもどそくて古今集
よあれひとをすはよ。アヌヒミ。アヌヨよもどそくて古今集
よ。背をなまそうか。ようひやね後藏用。まもおもうまくね。よ
ひだ松拾遺集。ひだ松拾遺集。よもやあもひ下

二段の活の才四の音えはせで。祇へめえきをふよもとをり。古
今集より人よきは。がよあがれにまづひ拾は集あちぬかをあほひ
おもせよ云く傳て。そぞりかまく。子代乃なみく。古今集にわせ
きをよゆきてうる。是をる密集よ。きなよやう先余。古今集に
もひすれよ。枝へきひをかどあつて。この三種の活。よせじ
とくべれ、トか乃御はれしがるな。禁たゞ。づくへト二段のもく
らき。望へよ。久事とく人ぞ古事記下。寒哥小加理許母能美。陀礼婆
美陀礼續紀宣命不妙。ねじりて。もうちこや止。等のあたすよ萬
望集ニ。よひ。あらもぬ國。平治跡。内ふよ。たる率。ゆきよ。あまぐら思
良之米。因十七。阿比見。之米。等曾因十八。れ。取きもあれく之

米多底人のあらびく 四十九小馬ちのー停息。佛足石枕小都
止。米毛呂毛呂もえも清く 大神宮儀式帳。國津罪々祀過
人尔云々祓清。正定給支東遊夙寄古本小寺世波与勢与曾不流
比止能尔久可良難久尔ながどもりと今代吉あくべとたゞもぬう
ちもれどづくへり一格なり古今集のうらうらうらうる例を多く
見あらざだ。源集よゑいもと。まみがく。鷹あくづきの聖あれ
けあらそくやくらもと。とらふれをあり一辰乃活詞中二辰乃活
詞ふへは例へず。すとよ。

○活詞を辨言す。いとおやーそへ四辰乃活一辰乃活中二辰乃
活きらむともオニの音。いきあちにいみいとぬかて四辰乃活を万殊

集よゑみがゆ。きけなぐも奈ぬ後撰集よゑいとねうく。に
枝つひせく。拾遺集かへのちをハあうよやすうながのひ一辰乃活
きハ古今集よゑぬちをく。ひ。ふゆく。おえく。たらぬ。乃活も
おとほえかくよながり。中二辰乃活を拾遺集よゑいとね
ねハ七日不かなに。き案古今集かげよだぬく。のやぢアビアギハ
ひく躬言。下二辰乃活ハ第四は音。え。け。セ。テ。ね。へ。う。え。き。え。ユ
て拾遺集よゑいとねうげよだぬく。古今集かげよだぬく。が
オチくもえよき案又。うろが。まゆの。おき。が。な。ど。り。く。躬言を
もつとまきなり。わかく。辞。え。よ。く。す。と。つ。く。と。と。と。と。と。と。と。
一辰乃活中二辰乃活。オニの音。ハ。下二辰乃活。ハ。第四の音。こ。け。て。う。き

おまえがうるさく見えておかぬ

○四段の活ハ第一乃音かさたはやらよりゆうを舞。まよひを
ゆづねらしねぢやうとひもと第二乃音まよちひみどよりゆき。
あまくま紫ち霞ゆき称らむぬかうけてもを称わふト
まきなれどもそばうれまわは音ふよまそえまかうれあう一段の
まうきと中二段の活ハ半二のちへきまちにひみいとめようつきあを
みあ翁すねみねどつひてあれまうとせし下二段の活ハ半四のちえ
見けせてねへめえれゑよりうけあも著寄せあもうけ称よセ称もどふ
てねあゞくまうとうゆだりこは前段乃の向やくねのどうものと
きわづちあうれあう右のな音称もえひあをうをわふト

とて來あれどもうれでふとまれどもあへばのせどりく圖小ちよ
たる事とはみつぶやうむだにまは四段乃てさてきれ第一の音よ
止うくれとホ二乃音トモテウクレモホ三の音れ切角トシモ葉より受
ふとまくはく洞す矣うく内ニ第四れあるよも紫うくらをありしよつ
ぢり全くにて化すすゞり混ぢるすやあふなり

○中二段の活の方三の音小はモードをそろそろくる。たゞ。ちゆゆ。
が。うると俗言ふハオ二乃もにうけりて。まわしあれひれみれつれ
よ。れめれ。とつぐに。くらとおまれや。せうとら。うき。とう
起。
らみるあざつゝかじや。又下二段乃もきれ方三乃もにる。文室と
えて。うらもつるめ。うらむ。ゆ。ゆうと俗云は

さあめ。身をかまう。かとう。かとう。身をつる。身を索りく。お乃
さける。わらふ。かとう。ながく。をとぐ。ひきの。事にて。羅
役の活中のをとす。あをぞ。受る。たとえ。る。む。よりうる。役の活
お全く。わざ。どん。まども。ら。よ。うちうる。手をとひ。かく。と。手にて。役
ひも。うひの。こ。せ。紫。と。志。が。く。と。ハ。け。き。と。身。け。り。き。と。バ。な。も。は。う。と。モ
ど。う。け。と。ド。う。け。と。キ。と。あ。ど。は。う。と。オ。ド。く。き。み。と。セ。ハ。テ。け。と。ト。か。と。
ハ。リ。う。べ。き。と。け。タ。と。け。タ。き。架。ぬ。た。と。ご。か。と。う。れ。ハ。あ。う。ひ。も。れ。
小。な。う。と。て。あ。る。傍。一。役。の。活。中。二。段。の。活。下。二。役。の。活。上。ハ。レ。活。か。

阿行之圖並變するふをの原

一段の活

得ウル	射エル
(え)	(い)
射めト <small>でぞ</small>	射 <small>でぞ</small>
引 <small>ひき</small> テ <small>て</small>	引 <small>ひき</small> テ <small>て</small>
引 <small>ひき</small> ム <small>ム</small>	引 <small>ひき</small> ム <small>ム</small>
(う)	(う)
引 <small>ひき</small> ミ <small>ミ</small>	引 <small>ひき</small> ミ <small>ミ</small>
引 <small>ひき</small> ム <small>ム</small>	引 <small>ひき</small> ム <small>ム</small>
(れ)	(れ)
引 <small>ひき</small> ミ <small>ミ</small>	引 <small>ひき</small> ミ <small>ミ</small>
引 <small>ひき</small> ム <small>ム</small>	引 <small>ひき</small> ム <small>ム</small>

下二段活

○はりハ四段の活中二段の活也
 ○引サレ射。鑄。得。も。の事とあらう。たゞハ三段活洞の文字
 留。く。も。圓。を。見。く。る。の。活。す。と。も。や。く。あ。く。ま。た。め。あ。り。殺。す
 ほ。と。と。を。ハ。次。と。出。や。く。下。の。引。り。下。も。皆。あ。り。

一段の活詞

射ひ

鑄ひ

下二段の活詞

此こう

と。俗。を。か。へ。え。る。こ。う。例。あ。り。

得う

一いくううう

○此詞とて一音の。も。あ。せ。ば。い。と。そ。く。か。あ。ー。つ。も。の。わ。も。皆。あ。り
 た。お。ち。か。お。ア。ー。お。た。ド。ひ。お。ア。ー

○や。ち。生。上。

〇十四

加行之圖 並受るてふとはの事

四段の活		一段の活		中二段活		寔格の活	
來	過	起	着	吹	飽	ニ	キ
ア	キ	キ	キ	キ	キ	ニ	キ
イ	キ	キ	キ	キ	キ	イ	キ
ウ	キ	キ	キ	キ	キ	ウ	キ
エ	キ	キ	キ	キ	キ	エ	キ
オ	キ	キ	キ	キ	キ	オ	キ
ヲ	キ	キ	キ	キ	キ	ヲ	キ

○寔格の活ハノトモフ何のミナテニシカニ活ニ内テノトモ
トモモヤタハノトモフニシカニ活ニ内テノトモモフニシカニ
キノトモヤタハノトモフニシカニ活ニ内テノトモモフニシカニ
キノトモヤタハノトモフニシカニ活ニ内テノトモモフニシカニ
トモモヤタハノトモフニシカニ活ニ内テノトモモフニシカニ

四段の活詞

あく

。やちまく上

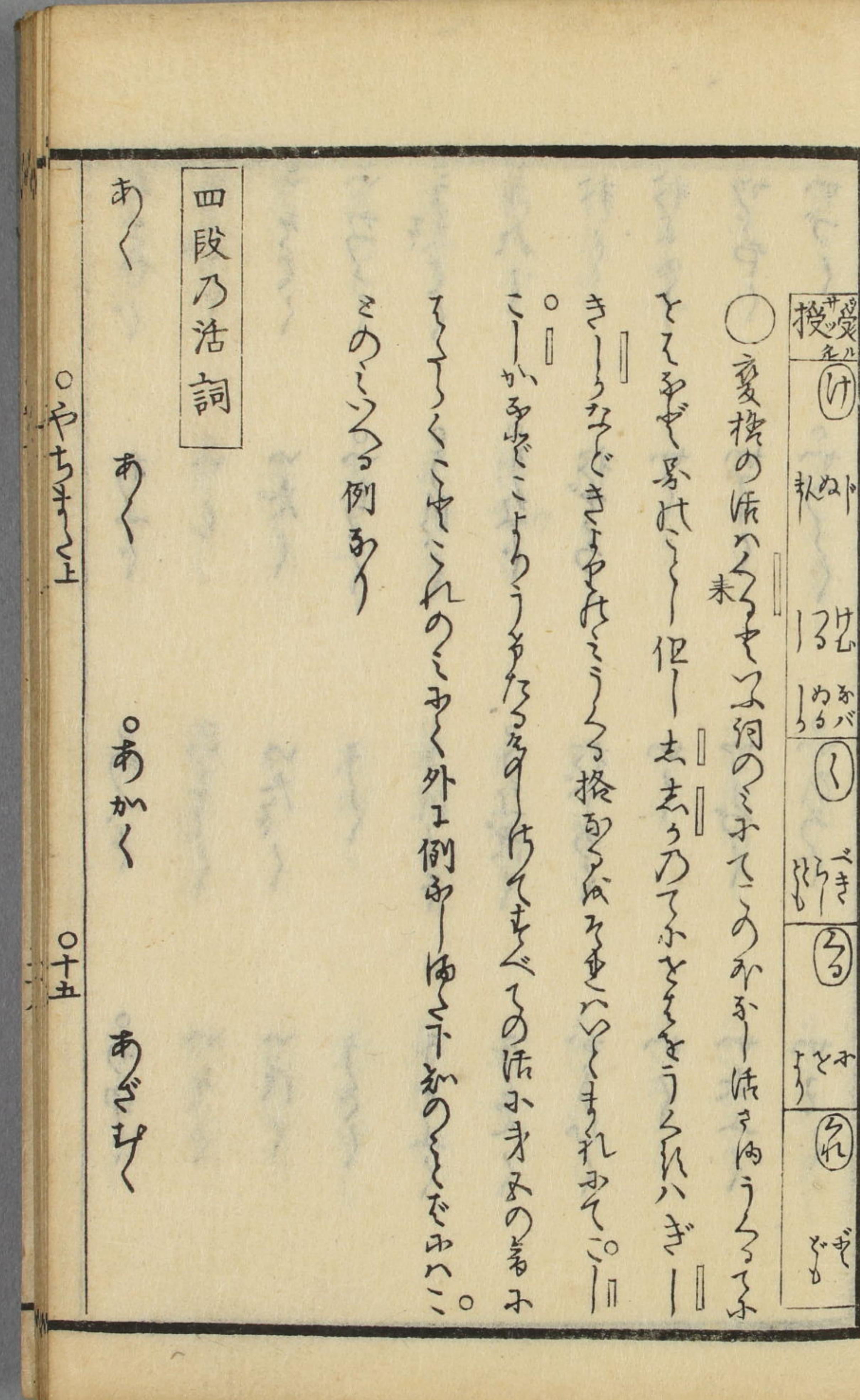
あく

あかく

。十五

あぎぢ

このいづる例あり



あざやぐ

あよぐ

あくぐ

あゆぐ

あむぐ

へく

つまぐ

へそぐ

へそく

へだく

へたぐ

へほぐ

ひちく

ひらぐ

ひぶぐ

ひそぐ

うゑく

うなぐ

うぶぐ

うそぐ

わたく

わらぐ

わぶぐ

わそぐ

わく

わざぐ

わばぐ

わまぐ

わづく

わーく

わづぐ

わこぐ

わづく

わーく

わづぐ

わこぐ

きく

きゑく

きぬぐ

きのぐ

くぐく

くねぐ

くせぐ

くせぐ

けさやぐ

こく

こじぐ

こじぐ

けく

けーく

けく

けく

けく

けやぐ

けく

けく

ちごく さぐ えごく やく
やもぐ ゆく ゆぐ ゆぐ
よく わく とく さく
りなく ゑぐ わせやぐ とく
き見る せぬぐ まく さく
さく

○左小手たる角乃既。○乃手とつまるとき手の活乃證と
トトヒラカタアノリ下みをサヤド

○右にゆく多葉の外何が。○ソラトモセロカシカニ

ミヌこの多葉ナリ

○あがく 新換字鏡小腕阿加久とラ

○あざやぐ 源氏物語寄生不行。や。三そえ。ひれあ
○あくぐ 萬葉集三不阿倍。す。フ。カ。ム。ニ。ゆ。け。ハ。和名抄ア
喘息安倍岐枕草紙オ若たるもの。ア。ム。ナ。ク。ア。ム。ギ。ア
くえくまくわべ。さ。ま。ひ。な。ぞ。つ。ア
○あゆぐ 拾迷集物石不早行。ア。グ。ミ。リ。ト。ハ。千載集
ホアゆぐ 茅先子すあく
○へく 六帖四手。一。日のえ。う。ほ。り。お。後。參。祭。ホ。く。す。れ
これめ。お。拾。迷。集。列。ホ。く。く。モ。葉。同。憲。ホ。ク。ス。や。マ。サ。後。拾
迷。集。意。ホ。い。か。ひ。ミ。セ。ナ。ホ。源。氏。物。語。桐。壺。ホ。ク。油。ヤ。シ。キ。ハ。い。の。ち
ナ。リ。け。セ。手。習。卷。ホ。行。て。ち。ゼ。ア。ヤ。キ。ア。ク。ギ。キ。ヤ。伊。芳。集。上

ワタリや。○もひるむ後六。○樋小實方朝臣。○うぞや。○
木よもうちをあき小侍従集ふ。○うば。○きあやぢサ。○連
支木集。○家達つ。○薬とぬとみ。○代浦。○すむね。○アテ
ヒ詞。○此乃中二院のたゞにきて。○きく。○くろい。○れの。○伝
く。○詔。○や。○らえ。○四院。○小法。○却。○たゞ。○かくて。○中二院。○
用ひたる。○ハ。○モ。○稀。○も。○が。○サ。○ト。○拳。○て。○さ。○ト。○も。○し。○む
か。○か。○ク。○キ。○古。○の。○四院。○を。○中二院。○も。○活。○き。○て。○わ。○ふ。○ま
あ。○そ。○ま。○れ。○か。○そ。○う。○行。○さ。○れ。○と。○後。○く。○よ。○し。○候。○
○へ。○き。○く。○古事記。○中。○卷。○立。○ノ。○也。○伊須々。○岐。○伎。○て。○わ。○み
も。○ぞ。○不。○り。○え。○ざ。○ね。○け。○そ。○て。○れ。○あ。○見。○べ。○

○いそぞく 萬葉集一小。伊蘿波夕ミロボクシ。

○へちく 捨迷集ハヂムシ小枕コマツといわづけトウヅケ。

○へらぐ 源氏物語 楠娘卷ハラグミタマヒメふさむし方フサムシカニへいらぎたるよそづく。

○えひそく 祝詞エヒソク宇須波伎ウスバチ咶タマでああ。

○えまく 須氏新エマク小門コノドリアシガナアシガナけゑひエヒ。

○つでまく 云ウムとうトウあわあモ

○うなぐ 古事記下卷ウナグ小其猪コニギ怒而ノリテ宇多岐ウタキ依来イレ日本紀歌ヒンボク

○宇抱枳ウボクシかくカクみミあアぐりグリススナナイ

○うねぐ 万紫十六ウネグ宇奈雅流ウナヨリフ日本紀ヒンボクにニ。

○うねぐ 万紫十六ウネグ宇奈雅流ウナヨリフ日本紀ヒンボクにニ。

○うなびく せえゆ供ふうなびくやあ
○わづく 万柴十分よき可豆良仗十九ふ藤可年ま
可豆良久ハ山毛く日うげ可豆良家流わざサハ
○からく 和名抄不妙加比路久注不船不安也モハシ
カノミキテ祭ナラシ

○きあく 杠葉証ふきあくくらゆふのとすをあ
○きもく うけ不妙後藤不きくそきてこつる
○くく 古事記上小ワタふすくう久岐斯子也万柴
十七小朝み多知久吉十九小立久久等もすにち
○くつら 除蟲みとつるふくらうどそくもううれど

芳菜よふ冠乃ひくいもくくらうぎたるまく杠葉紙ふく
ろきてなどりる
○くぞく 住考わ諸ふうらうどれ支本集ふぬうこまぐ
もじきつるかねなざあ
○けあやぐ源氏ねゆけきをぎてまわくねじら
○こうく 和名抄不嘶咽古路々久やうるゝをあ
○さやく 後撰集ふ人そりやきふをバニくやう聚
○りく 万柴ニ言佐敝久さあ
○あざく 古今集証ふづらの花とくちくふくわざ
多く丹後守為忠家百首ふ仲正をくればももあらうづ
○やうすと上

小ち。ぐわ。とて。まき。そ。か。たり。

○志度く 萬葉十九ふ底。う。み。之。都。父ア。さ。催馬樂小江の波^牛為爾之良太万之津久也。云々古今集。水のむ。まづ。

く。ちのえ。りやうに。そ。な。が。行。で。

○志く う。ほ。ぬ。詫。あ。て。官。ふ。本。は。実。ね。の。ま。と。む。ん。て。云。又。う。う。ば。ち。つ。り。く。れ。い。み。く。や。ー。て。ま。れ。つ。も。と。あ。う。す。き。源。氏。若。菜。よ。け。う。び。す。ー。の。じ。つ。ア。そ。ち。か。セ。た。く。ま。う。れ。金。空。集。連。奇。小。春。乃。田。下。ま。き。つ。ま。ね。が。き。れ。ま。た。す。れ。ゆ。ま。く。ち。に。水。と。つ。モ。じ。や。な。ま。も。つ。ま。

○志みやく 新撰字鏡不。慄。憚。惶。遽。也。於。地。加。志。古。弥。須。弥。

○也。久。さ。く。詞。文。集。憲。ふ。ち。く。や。う。ひ。く。も。あ。る。炭。燒。さ。う。う。○そ。く。古。事。記。下。卷。ふ。や。く。が。聖。曾。岐。さ。う。と。と。き。曾。岐。さ。う。と。と。き。聖。岐。○そ。め。く。枕。草。紙。く。う。の。わ。せ。く。く。う。き。こ。そ。り。○そ。う。く。丈。木。集。ふ。意。序。く。う。き。わ。く。る。山。乃。木。の。雲。○そ。ほ。ぐ。保。氏。賢。木。卷。ふ。ぬ。ま。く。う。ち。き。不。ぞ。ひ。て。牛。川。ま。く。す。う。ほ。や。き。て。ま。あ。う。○た。く。萬。葉。ニ。ユ。多。氣。ち。め。き。多。香。根。ハ。長。き。九。ふ。か。ミ。多。久。す。ぐ。十。か。手。す。シ。ス。ト。ヒ。ト。そ。ち。る。く。え。ニ。あ。だ。あ。う。又。十四。三。函。ハ。多。具。も。十。九。よ。馬。太。伎。ゆ。お。じ。や。あ。れ。ハ。わ。か。ー。と。そ。う。別。あ。く。も。活。ハ。ひ。か。ざ。そ。う。あ。う。

○大きやぐ 源氏總角たそがねべきくもく
○ほく 萬葉十六石よろづ都追伎とづりもく
○ほく 古事記上卷かみふとづね都羅トロ々玖
○せつぐ 和名抄なまく止豆木乎之閑止里又祝詞嫁繼給豆
○せづく 重之集よのやアシよづくゆル格トロとよも
○やよく 日本紀にほん鳴响騒動諠言諠譯なごと志ウトシモ
○ゆうく 古事記下卷しもたかを斗呂ヒラ岐豆ヒラとひも
○ちくぐ 古事記下卷しも必自跋アシタハ也字鏡カミツキ小驥コスル足奈戶タナヒタ久馬又
和名抄なまく蹇訓アシタハ阿之奈聞此間云那聞久タナヒタハ久馬又
タヘドンタヘドンくふくあぐあく

○のく 堀門二郎百首よひさうすまはなだらむせくやこや
よそく おえよさおやー
○おあく 万葉十署波自伎アシタハとあく
○もなく 牛頭地語ウシヅチ語のみ多乃アモトアモトくみや
○ちくく 靖玲アシタハ記三ミかねおおひもぼるやくふぞおびゆれ
こらかく さくらしちれきなまくまくまくまくまくまくまくまくまく
ざれども倍ダブル四乃音ヨノイニよどる乃ノにまくまくまくまく
の活アシタハ向アシタハの例アシタハあり下二段シテニの活アシタハ乃ノれをもくまくこつまく
俗アシタハの例アシタハあり下二段シテニの活アシタハ乃ノれをもくまくこつまく
○ひらく 源氏幕ヨシマツ木ヒラ源ヨシ木ヒラもたとあるとあく又樂式アシタハ

日記すた。多ひサトニラヒ。レア。云々。モキツク

○ひろきく。枕葉紙。ひこう。よて。モキツク

○五徳く。日本紀。憲恨^{フツ}。哭^{ナキ}。憤^{クツ}。怨^{ナミ}。モキツク

○多^シく。精^{セイ}。鈴^ル。日記^ノ。雨^ハ。ゆ^ハ。レア。モキツク

丈木集^{カタシム}。ゆ^ハ。モキツク。モキツク

○ほ^シく。日本紀。神代卷^{カタシム}。神^{カタシム}。祝^{キホ}。祝^{ヤキ}。之^ヤ。モキツク

○ま^くく。古事記中卷^{カタシム}。枕^{カタシム}。其后之御膝^{カタシム}。萬葉集立^{カタシム}。人^ハのひざ^ハ。ワタ^ハ。摩^{カタシム}。久良可^{カタシム}。武^{カタシム}。

○ま^もく。字鏡^{カタシム}。贋^{カタシム}。目數^{カタシム}。動^{カタシム}。良^{カタシム}。万志^{カタシム}。呂夕^{カタシム}。トア

○み^そく。万榮三^{ミソギ}。小潔^{テマシ}。身而麻^シ。之乎。淡松中^{カタシム}。訥言^{カタシム}。

寺^{カタシム}。多^シ。と。え。ボ^{カタシム}。作^{カタシム}。ア^{カタシム}。ナ^{カタシム}。ヤ^{カタシム}。モ^{カタシム}。

○み^そく。万榮十^{カタシム}。ハ^{カタシム}。ヨ^{カタシム}。ア^{カタシム}。ジ^{カタシム}。美^{カタシム}。都^{カタシム}。久^{カタシム}。カ^{カタシム}。リ^{カタシム}。

カ^{カタシム}。リ^{カタシム}。弥豆伎^{カタシム}。ツリ^{カタシム}。ト^{カタシム}。モ^{カタシム}。同^{カタシム}。言^{カタシム}。ハ^{カタシム}。

○ゆ^ハ。万榮二十^{カタシム}。由^{カタシム}。良^{カタシム}。久^{カタシム}。人^{カタシム}。モ^{カタシム}。ヤ^{カタシム}。

○ゆ^ハ。万榮二十一^{カタシム}。由^{カタシム}。良^{カタシム}。久^{カタシム}。人^{カタシム}。モ^{カタシム}。ヤ^{カタシム}。

キ^{カタシム}。テ^{カタシム}。云^{カタシム}。モ^{カタシム}。ア^{カタシム}。

○よく。後撰集^{カタシム}。秋^{カタシム}。宿^{カタシム}。ト^{カタシム}。ツ^{カタシム}。貫^{カタシム}。之^{カタシム}。ヨ^{カタシム}。モ^{カタシム}。

モ^{カタシム}。秋^{カタシム}。冬^{カタシム}。又^{カタシム}。よ^{カタシム}。モ^{カタシム}。ア^{カタシム}。カ^{カタシム}。一^{カタシム}。真^{カタシム}。集^{カタシム}。ト^{カタシム}。モ^{カタシム}。

元^{カタシム}。真^{カタシム}。に^{カタシム}。の^{カタシム}。よ^{カタシム}。や^{カタシム}。森^{カタシム}。の^{カタシム}。木^{カタシム}。は^{カタシム}。ナ^{カタシム}。精^{セイ}。鈴^ル。日記^ノ。雨^ハ。ゆ^ハ。モ^{カタシム}。

道^{カタシム}。ハ^{カタシム}。よ^{カタシム}。か^{カタシム}。立^{カタシム}。立^{カタシム}。正^{カタシム}。正^{カタシム}。付^{カタシム}。付^{カタシム}。四^{カタシム}。

ひきよ。かわづさくれぬ川百そふきよひきよ。ばかくわく
加那丹は守為忠家百首に仲正ちきよすらぬそふきよ
。。。。。。。。。。

まで意全く才氣に至り
○わやく 杜ますよ力やござやあ

○五十九 字鏡上噪出氣息一呻吟也。惠奈久。

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十

○を先く
村本城下をうけ、ハモアリ

○万紫三小見毛左可受仗濃十四つゝ波可馬可毛カタマ可有アリハ

今くこゝにきく緊力子あればよし外に活きて
例もあく又かくもあくせきの音の活
謂の音にきふらひこそ、み詞ハヒリ下ニ位のもとへるを
ハタキモキテモけ免ひまことづき例ありまたて
もうの音にきふらひオ一の音よりうらくハ四段の活中四段音
もうまでハ下ニ位の活をもとへよ

一段の活詞

着る

中二段の活詞

ありふと俗云ハシモコソノ例ある

八

起

卷之三

卷之三

○よくろ万葉九ふるりその興久列とわれとまく十五よ
なう月に興久流月あトド古今集春ふるいともち
よひよせつまほじ好忠集よ草木繁をよひぞうほどひ
弟宴よ山中をりくき人ハなれをわざれ林よ風を
うきなきかく海づるをえ乃かじをオニノ音トウラヘ
ハモタキ乃招あま 源氏竹川よむよまくまもほよ又
よれねなきのゆくもすハ今撰和歌集ふうみてをこひき
かやまくまきにけりとくにツクがく

下二段の活詞

此くを俗言トハケリコツノ例なり

あく あぐ あづく あく

あぐ あづく あく

あづく あく

あく あづく

かく

○あく あぐ あづく あく
甘六^{アラタナカサ} 散卒^{アラケヌ} などり
やく藤壺^{アラタナカサ} よつおだらわらきなくむとあや

○やちまく上

○うらぐる 古事記中卷ふむかみの字羅宣て又下卷小
えありえうらぐると云ゆあります

○やドカラ 古事記下卷に姿體瘦萎カホタタキホガタヒ源氏の後を禁
やドカラニ 振川次郎百首トヨウラバ行つてば
りくえミタムトモ

○や波カラ 日本紀皇極卷ふ感をやドケシヨウル 続日本紀
宣命小感天又万葉十六にうねりや蚊間毛而そひなど
のとあドテヤドカラシハシケモモモニノハシトモア
○さぐる 拾迷神樂耳小ヨゲモきて催馬案不もや人乃
トドクヤドロトエシナドドリモ

○あづくる うらぐるお供國譲乃子にやドケシ乃ねやくち
くれハ忠見集よつぶくかみのあづくらふまぐに
○あづくる うれか物語次上の巻上ふよひちうげたう云
金紫集九ふよひちうがけらるる事ヤナドア来
○あづくる 古今集わスにはのをちうげてゆだりまき六
帖の下ふすげてひくらし花葉紙ふくらなごの絵もげこそ
一 故本寄秋集に重きえぬすれこひはよくそにう
るすにえまくげばうきや 丹後守為忠家百首ふ重きえ
ぬえやうかうそのあくらむかくすみのきうらうき家

○のくろ 仕事も諸小遠くひそてミアマ
○そぐく 萬葉集ニホツミシマ波氣まくはり作苗^{ハグル}
ざを云々なぞあ

○ ふるう うへやわ諸侯下ふきこえりタすこわ
源氏あがゆにむひをひげておひゆ狭

衣ニモむねもひ○カク○やあ
○ひたゞる 懇氏園丁にひたけ○すまトヒキ又若菜
ホウカリひた○きて△わげあきハ蝶花の△う初花小
内乃は伎えひ△け△ゆわ△ご△く△お△あり

○ほゝ 原氏明不ふつゝ。ほゝ。かく云々。かゞやねあり
○ほゝく。保氏黨にみちをかゝり。ひきあげても以爲可
○ひゝ。万葉又かゝりたと武氣。たり。がふどなやうりま
○やゝ。万葉一にむすひぞ所焼ミよ。ヤクル。

○やくらう。うれしゆか吹よふつきれ布のやうたち。
○力くろ万紫五千和和氣。云がきるやまとく
○古事記中巻歌小たち波氣まと万紫十四。あそねー
奈久流れ下す。かくあくちやくハセ。なやく。のやく。
ひくにて。く乃活。くば。やも。あくび。又まけ。くよ。やく。うも。ゆく。
『源氏物語』

左行之圖 並ノムニシニシモノの事

ほゞまうたるやくをあわせにへらばえをかくたゞ
むがてひづれは、まもすわざをうそぞれゆゑ
うねどこなそく、ふくをかくなれな方まゝま
まくをつづくとれなまくは活びをわくわくと又
まうつひて、まかくわくわくまくまく
ふやみはきこえがくわくかくこくとばくわくたまく
あげざふり他行ゆもくのたゞひ、れうどあくともじくろ
どくはくふづび

瘦 ヤスル	合 アハスル	為 スル	指 ヒサス	押 オス
(セ)	(セ)	(セ)	(セ)	(セ)
まひぬにてぞ	まひぬトでぞ	まひぬトでぞ	まひぬトでぞ	まひぬトでぞ
1つけりきつ	1つけりきつ	1つけりきつ	1つけりきつ	1つけりきつ
1つめあがきつ	1つめあがきつ	1つめあがきつ	1つめあがきつ	1つめあがきつ
(す)	(す)	(す)	(す)	(す)
まとらべらめ	まとらべらめ	まとらべらめ	まとらべらめ	まとらべらめ
(ち)	(せ)	(ち)		
まとみまがな	まとみまがな	まとみまがな	まとみまがな	まとみまがな
(れ)	(れ)	(れ)	(せ)	
まとやを	まとやを	まとやを	まとやを	まとやを

寔格活

四段の活

下二段活

○此行ふに一匁の活中二匁の活なり。但古事記上卷尔根許士尔許士而至二万字八分伊許。自而うゑーたすもあつてまく。

テキニ方あるよててとあるの事乃く四段の活中二段の活

をうと四段のもとまきなばこざだこざこせやくツ例

あれとはハシマミテモウドコヂゼコヂシシダれあ

ハラシルタケミバムシテ中二段のもとまきシマセトね

シタセモ外ヨシビリシタセレモト活たるモリスモズア

リテ外ヨ中二段の活用。ヤクシヒタモシムサシキシテ

○変格の活用を下にせし活用文を下とせなぞ

おのく行志あうひめうにとくはまうハ。あうひめう

行あくをさへゆく。セー。セー。かあく。セドリのく。カミ

エタクタク。タガミ。タニ。タシ。タモハ。トモハ。トモハ。

あつぶりにて相も。もとけ。にとけ。と左のぢやく。あ

あうひふをのく。地ふく。地ふく。加。行の変格をく。あ

うひふをく。かく。かく。用ひたる。ちどり。加。行の変格

この。変格く。似。とく。あは。半四の音ふく。とく。とく

と。加。行あく。ハ。オ。ア。チ。フ。活。も。黒。そ。ま。ハ。今。く。な。や

り。下。か。ハ。セ。モ。す。と。と。て。セ。モ。ト。利。フ。モ。

四段の活詞

あくも

。あく。サ。モ

。あく。モ。モ

。あく。モ。モ

まちへゆき。おまげりと
くまも。うだも。くはも。
くやも。うゆかも。くも
くまも。うらうきも。けも
こも。こがも。くも
くぼも。うらうかも。おやも
くろも。くまも。さがも
くまも。あくも。すがも
志うも。あくも。すまも
すぐも。あくも。すまも

やまと

○あくがりて精玲日記ふかくのくあくがりしちうるハ深く
若菜尔弓をとくをあくがりてき弓曲エあくがりてくを散
木寄所集エ弓をとくをあくがりてあくがりて千載集春弓
あくがりてれなあく

○あくまで鎮火祭祝詞にあくまでゆひつじゆうじあくまで

○あくも源氏玉蔓小ねやーあくがりえみじめいま萬葉弓
よのへをもあくさくびこよもくわりよアベノ延びうたれ
てくせなり

○あくも古事記下巻哥につるやなみがきつき阿麻斯云
○あじせ万次十六にアシテ安牟佐武もあく

○あやもうばやあ清俊彦美弓血をとくらやしてまた梅若
笠巻につるもくらり血をとくらやてなぞぐりう

○あくがりて拾迷集地名にむあくがりてな萬矢ひ籠く又
赤染赤つ家集エ女院の姫君やまくえをせとこうアーナ
うまれアーナとまくはやくもとぎれあくと乃の

○ねじやも字鏡よ憎又懼於比也須とうて外ふ
ナシキハ加の字れ脱オチたるふへ行ハシく

○ねじやうそ源氏东山モリヤマ金毛巴カミバアモリ

○れいそ万策十八不^{トシ}於保之日二千小あでに於保佐年
まくうみムカシ於保世流六帖ニ又云よなでねりくう所不^{トシ}ねど
よなづの村を半よすてサワすねのもやしにまくあせね
ソリテソリテねりせのなごんてキ四の音ようるモきのてま
をもばうるハ四假の法網小か手^{ハシ}経ノ^{ハシ}の三種のそと^トき^ト
もよハ^ト例トシナ

○ねうすうつほ相後後度ハシトモトモ

○かたそ日本紀神代卷に鍛作新鉤云々三代實錄十八
改鏡益神宝為貞觀永寶常乃鑄錢司路遠妨多亦依天
加タス之於山城國葛野郡天令鑄作云くとひをうち
○かよみ後撰集云せきくセキクかくカクゆくユク人ヒト
又アシくクかくカクすスかくカクくクまマうちウチなナぐグ人ヒト
○ドト金索集引ウミカトハナキ住リおがた卫エイ
カカくクくク人ヒトにニなナぐグてテなナぐグ人ヒト
うウはハすスふフかカ第ヂニ乃ナまマ下トへヘよヨけケつツハハ四シ假カの例トシ又ドひヒのノをヲ一イ方カタ音ヨメくクくクハハ四シ假カの活ハシくク象カタとト景カタとト景カタとトあアべベきキちチうウてテあアべベ

かくべきまでつるハメ内けり乃下二段の活よかよはす
かよみしろかよみしろをかよみでまよひよぐれもももうれと
おうづる。よも一つえやー御と今れ人よまればあやまく
きよればが一そべてけりよかくぬごくよきこくじれ
かきねる。よくよくよくだくべきとく

○かくとも情玲々記よが袖ハひくとめよしおやうくま
人のだよぞよゆくとくらうセミトモテハくま下二段の活の
まくまくとんてキ四れをとくのゆよて下かの活ちまくハ
四段の活。三段の例なり下二段の活なばかくよとよ
とくとくとく格なまくせよにゆくがくヤー

○まこと古事記下巻哥ト大君トトと仗。許。佐。婆。日本
紀。かわわうよ枳。許。瑳。怒。万柴十一。よへそとす。許。勢。十二
よへそ。よもあよむ。と令聞。二十小かく。仗。許。散。婆。女。村。ア
○まこと忠集に雪ゆき。ぞすらまに。う
○まやと相葉代よちよ山方くとじむすられ。や。よせ
六立。まつ。う。う。う。う。う。う。
○まこと源氏行幸巻よちよてうゆき。ふうと。き。う。

○くゆかと源氏初音よぢうとくゆかとよあり。
○くぶうとうのやぬ諸後彦巻にまねこと車のわのど

くひくひながへえくわあう

○くまほと 古事記中巻歌小本岐政流本斯とあるこの
そたきなじべー

○くわまと 神賀詞につづく黒益之云に栄花の諸むのが
ざらにしぬくわまとたまくあう

○こなと うにほぬ諸伎藝卷に本と云ふ。うもせつへ
はみみてきなり

○こなと 榆葉紙ふくあほりかへきつて

○こやも 日本紀下許夜勢屢万榮集ふくらなす許夜
斯れ万榮よこれうれめまひてオ四乃音トリルノヒトハ

とうくらハ四版のこてきの格なり

○くもと出雲国造神賀詞下つるふくらなす

○こがとうじゆめ櫻たゞとのよみぬと人云くわらう
てえくまこ条の後乃生をふりひそけり。もと源氏やく
足本の本とさがへて栄花うらぐの列ふくらなす
桜葉紙ふけがくくろ紫式部日記にうるえ古ひま。

か。うこなとどくえなり

○さちくらに 狹衣四よそひくまことつと

○ちくらくも 源氏若宗よちくらくも

○もがも 丹後守為忠家百首仲正けよきれあそし

○やちまこと上

三十七

かまへりとてひづれの儀とぞすとあくみ心へことよりぢる源氏
筆本よしとさうはもくらひをよき所すわざとあり
○そへて源氏蓮をふつまぐるのゆへもすとひそひ
○そへて源氏耶不卷ふ酒あひにこすねあり
○たゞそへて源氏菫菜ようとそへりごじひたゞそへて
○たゞハモ大祓詞に置足オキタラ波志ハシ万葉集十三にあ矣けんに
わく足椅タラハシ足

○そへも源氏蓮は小つまぐさのままでとひり
○そそ源氏耶衣卷小酒をひきなすりあう
○たゞも源氏菴葉よりとくのびひだしてすらじら
○たゞハモ大祓詞に置足オキタラハシ波志オキタラハシ万葉集十三にあ矣に
わゆ足椅タラハシりとえたり
○放ふも昨夜詰にまかとつまほよすやあくま
赤案本の家集小むすめちとけぼうておみよつまがすむれ
ひきめつる多かたゞくとツアリ もすあぬう張とだよ

○萬代十八余天良佐比古有ハア
○字鏡子銜天良波須行也
中了云々と 波 行の西便

波

○やかまし上

三一〇

えふあがたるへばひの下二ほふを活てまがくきゆゑ
なりれども下二ほのこもふくらみノト
○やほもと万紫一。仁寶播散麻思乎。もれせよ。され
きなまことにわなドトにソラダ
○よそヒ古今集ふ。おもむく心もだてきよ。ト
○よそか。源氏の聲に。そめく。アリ。ヤアモ
○やも。催馬樂。小藤。野ウチ。もがく。を。あく。は。ヤ。と
あ。林。よ。よ。え。り。よ。

卷之三

○ ちるうれ 祈年祭祝詞尔見 ハカルカニ 坐マツハセアガトウハオヌヒ
ヘタクシトモノアラシテナリスハ 千載集哀傷よむよよも
おもひとづかせまくらりハ リヤマホタケ

ひと 古事記上巻に治養をひく。

又原氏物也。○○○

○ひやもうれやあ清条の役乃下さるは馬どもつらこ

てひや。云く情冷見尼小馬。浦ふ引サテ。ひゆ。ゆ
云々支本集安法。ひや。八哥。よしうひきたゞ。ひゆ。

きりなどあり

○すへ全斐集意小つうがを後りあらねあつされぢ
えひきる名をすか。しのくかふじあ

○ほこうだも源氏若葉エヒミ。ほうだ。なれよ

○ほかむわらくば地諸小ほ。か。ほよやこあ

○おがハカムシ。ほ地諸藤原君のまよ。か。宿中ぐく
か。うきえ

○まうどそ狹衣ニ。雪。まうど。すれり。うま

○えぞうつそ。だま。武。まくのまむち。ま。徳。か。

たる云。にせり。まく

○めやも後撰集。つ。か。なげ。さ。れ。と。も。や。ま。す。好

忠集。よ。ま。く。よ。や。で。ま。く。や。く。わ
○や。そ。次。万。葉。集。二。ち。ち。や。づ。人。と。和。為。跡。ま。く。二。十。三。
夜。波。之。あ。そ。よ。ゆ。く

○ゆ。が。そ。轉。玲。記。ふ。ひ。き。ゆ。く。ぎ。そ。う。焚。草。手。に。ゆ。
己。須。萬。葉。集。十二。卷。ふ。入。言。之。謫。乎。モ。テ。催。馬。樂。革。桓。お。や
に。ゆ。く。と。の。ゆ。う。一。な。ぞ。あ。

○わ。く。も。万。葉。集。十六。ふ。り。よ。う。お。湯。和。可。世。子。ジ。を。え。い

。や。ち。う。く。上

。四。十

晴蛉日記か。かくかくは丹波守為忠家百首上監忠
だくとあるの子にあらぬたまへなまびとづんこ
ろ耶あくみえり

○さやと日本記欽明卷よ毒害ヨシコナヒ又仁德卷ヨシコナヒ被蛇毒ヤサケ而モリ

○古くさくときかすがおじとがげりありとすと
たうとたうとあひとあもーかくをかうとせほひと
ほすとむとふとわとせわとせわとせわとせ
かきくの四医のそとよに近づくつゝくくゆるや
かきくの四医のそとよに近づくつゝくくゆるや
かきくの四医のそとよに近づくつゝくくゆるや

クたつまよー他の行小延ホカ不ハヤくよじれに
つる例ホカラキか右の、せくづくハ四医のそとよに近づく
ちくぶ万榮二の御言不御問とみくじとホカラキ又サギモ
ニ立為者ホカラキセ。よ。ぞ。セ。よ。ぞ。ミ。ト。又。モ。レ。ム。
○つづて下二医のそとよにかく例ホカラキよなづアミ。セ。よ。ぞ。セ。
ち。セ。バ。ま。く。セ。よ。ぞ。セ。よ。ぞ。ミ。ト。又。モ。レ。ム。
○他りふハまだく方あきをけりかくハ四医のそとよに
と下二医の候ホカラキとだづひよ。まづく。ご。ざ。か。これ。を。

ある中少万葉十一からぞ晩師。えありよる日を拾迷集につつ
で。ち。ぐ。く。む。く。な。ま。し。六帖ニま。六小帖。ご。れ。ほ。
順集に雨。め。き。と。君。や。か。く。魚。鹽。集。よ。う。じ。上
乃。山。れ。け。じ。ほ。ど。先。よ。事。重。之。事。た。ま。ゆ。か。く。里
ハ。ワ。く。く。傍。云。集。に。ひ。き。か。く。む。く。か。り。仲。文。集。ア
今。ハ。と。そ。か。く。く。ト。ト。よ。事。を。や。う。く。後。も。朱。ご。色。も。翁。が。ト。く。ト
に。う。く。く。人。を。云。、ま。き。か。く。う。く。の。ほ。ぎ。く。て。く。く。ト。そ。え。
ゆ。く。く。く。人。を。く。く。ま。テ。う。く。不。や。ゆ。ぐ。と。う。く。の。底
の。底。に。あ。や。く。く。く。と。あ。も。も。す。う。志。一。せ。ば。円。く。た。づ。の
じ。し。鳥。れ。卷。一。つ。ゆ。と。あ。う。ば。し。に。円。を。て。ま。ら。び。ら。よ

か。さう。あくとちり秋のよしにこうふわが。こゝとども
云々。妙玲見じよひもすとす。ゆうむらじほのやうに
え、源氏の清須をすすに春をかへ清くまとゆくひくせ。
あくふうに月前末案卷かいがくからく。因のあくざき因まが
治一の多事多忙で、すこしあんぐる。にはく
因菴葉巻にあとそばけとことぬざく。かえ、因玉う
げのよし不たゞかゆきこゑぐもぐ。かく
内格派書にか乃かれびのやの先かくもぢながち
月推本とおほくよしとれまちにまづく。かく

狹衣一の重手二力手三手四手五手六手七手八手九手十手
ひきはれてきまよせば。しりひきへなどれゆすま。れ
らのま。とつりもせ。まくわきもゆまくま
らばそのゆきまくまぐて風ふきひまかどまくつまめりふ
す四限のまき詞ハオニの音き志ちひみりと云去
れ志をまくふきゆをなす。まくふきをなす。まくふきをなす
乃乃羅のまくふき詞あれハ牙二のまくふき。まくふきを
づべき門か。第四れもえけせてねへめえれふ。もうう
るハ下二限のまくふき詞ハ門まくふき。まくふきを
の下二限にまくふき。門にあまて四限の信ふく家の例よ

寔格の活詞

えひぢる。わらひる。ゆれちる。
けいぢる。ぐらひぢる。うびぢる。
ちぢる。せひぢる。うすぢる。なまぢる。
ほきぢる。ほしぢる。おとぢる。ひぢる。
やうぢる。りくぢる。まひぢる。うへぢる。
まのぢる。うじぢる。

○草木等の外をいひて「」のうへぢる。一葉
うべもりぐあすすもかぢる。み一つせじゆく
あ活ぬく。其外ハ爲^{スル}よそをとめてつづが取てつ
のゆのゆに下れるあき

○むす。竹板物等の中ふたもまくにてちこま
むける。蔭宿物語。むせまのひ入ひをで伝古物語
に云ひやがむく。又蓋にむす。後氏端子すかこ
みハむく。むせまのひ入ひをで宋在和語。宣ふむく。待びえ
むく。むせまのひ入ひを。海氏玉女巻。湘日がく。すゑの
はせの歳とまく。あがひうと。あく。ばあく。あく。すゑの歳と

ハ異アラセ一奉ホシムセゼニキムソノスメ例アセカヒヒテコニ
○ウレタレ 方索集十六に括為禮カスレトアセ
○キチタレ 後撰集カクジンセニキムセキムセ 拾迷集カツミジンモアシナ
○セシヌキエシナ 落シボニキニキムカセリムシロ
○タモモト万祭十四小タモモトシシケギ多延須禮タモモト
キ清正集カイセイジンニシヤハタモモトシギサセドトモ
○ツモモト源氏漫麿卷カイジンモモトニツモモトシモ格狀カモモトニツ
モモト 宋元あ後鳥邊野毛カモモトニツモモトシモ格狀カモモトニツ
モモト トモモトシモモトシモモトシモモトシモモトシモモトシモモト
モモトシモモトシモモトシモモトシモモトシモモトシモモトシモモトシモモト

下二段の活詞

けちると俗ニヨハセうくつよ例イタグマドリ但シテこの词ハ能

あもる あもる あもる
わふもる わふもる わふもる
きもる きもる きもる
せきもる せきもる せきもる
かみもる かみもる かみもる
ひもる ひもる ひもる
のたもる ひもる ひもる

皮
志

卷之三

蒙古文

み
さ
る

卷之三

や
さ

卷之三

三

○右小舉なるかくもむらむれりのやまのゆすれ
まちるまちるまちるまちるなまく地よりよひの詞れと文
トもぐくへゆきどそてらふと今俗ふとけいの里の傳
いへどもれられ宿ふとむらひまがくべえくべきく左の紀よだ
さはる内とたゞせうじにまきいぐをこいまくで貴人へ行
人ふわせてわくほりれがちのばくたふくもふうりと
ふきよびらてそれとまくにてみくのくわくを
わやかくわくつるきおゆくまくめまくさくと今

ひやきもあてぬまほのまちこひ又奥ト
たまよと奥セヨモ原山こひひもひはるのもとヤム見
をひきとくに清風をよそひかせよたゞひわが一な
えれ活をそひみてりくまもじがまさしくひみ行四限の活よ
延くまくらむよそひつづくとくらむくらむくつせう
○んて化ト引ひの活き物とぬもくはけ行の四限の
活あす後拾遺春よ梅うもとさくら代ちよかほくで柳が枝
よけせうか原山はるかに手本かよてちくもかなま
めくえなまざつるは拾遺あまち橋の夜ふ荷乃あほひと
あくしとひ源氏あらも原山の葉上に手本とか

列傳卷之二十一

○上小參の事と紫力はおほれ乃四版をもくとく
うてゆきそよぎるほどの澄と清とおせりこのけぢらうい
すなはれどもやひくはたぐつてゆきを今まに
取てさやまわへあやうくとまくといへにせなれど
此下二版のとくとき詞と今俗言小ハラの所の四版のとくと
かつままで居てもかくわざとむべ

ほ舟か右大將の宇治へ。まじるこをねたえてもやれ某氏
ふまうとどこまうとてゆくやうひ。まとうれいがめぐやすも
のたまもよれ様ふ安法。所集にゆむの君のうのゆくられ
はる。しもちざらそつゆきをもきれふと即ちわざとあり
きてひくばよのりの四版のみ。活く詞をせよとれりに右のわ
くあきがられ信よそく用ひる詞に見えたまされやさまとにて
うれ外見あたらえとハおなド。もとまきことえたり。ゆくひを
ゆくほきてわくえまう用ひ。わく色例あり
○おとどろ。万葉十八。於許。世年。うかはまく十九。於己勢。
多流古今集にもうせまう。今ふくまとえ。後撰集ふくまと

れ。さうちの男は、伊勢拘詰にこかさわきてからこよる人れ。こ
せ。さうれどやまとひつ故、蜻蛉日記よもじとくが坐して、ふ
え。ちよまれを源氏神よつせすぐたまきうねむひもくらせむ
馬内侍集よ御ゆのぶ文れこもれどえくあを狂歌わば
え。れともれど文をくきばあと四段の活詞くび人むらきば
え。くてもじをあこねらせべとつま空事うて又むなせたる
などひてよどみぬ方の音よを受うきし下二段の活詞の傍へ
きゆきる。万葉十八三みかまう勢年後撰集にあ。す
をひつてよだよまくせそまくけぢに聲をわきまくせよ

大和物語からとす。○也翁源氏事本がさきよかぎりをもと
されど程々多くてあらへるかのうほどに
あはいとだ

○今まく 捨送集よつとふくやうもとをもと内よたててあ
る。も西風の匂羽あらば。ノリヤフ簡あうそそぞかく他
小ちひるふよすづくもんてえあひづきゆあ
おまれ 万葉二十不志。良世年古今集憲よつときより
そよおきし 捨送集にまみおき。せき後捨遺集枕不志。
ひよくまく、精詮思ふ。小枕たゞうらきをもとく。勞祐

源氏物語傳角弓樂歌

。。。。
あくまでもさういふことを田代のことをいふえ
ひがくねともかぶさうつる例を

うがくむすめをさうつる例事

○ せうじる 拙書にその人をこまめに見てせうじる事
ひれわくこの体へ紫の色

○ まつだ。大和の小豆は源氏の食
○ 事。勢たればあす。

○ ちはもる 源氏お紫モモ小てかじかまてかくせなどえ
○ かくそもる 後拾遺集春にあう音をりくらむ
○ せて柳が枝かわせつゆふ
○ ひきふかくせまくわくひ

○ まつまつ 朱えの居小あゆまちう馬と。久。久。勢。舞。
伊勢抱持小御松。水。水。を。な。ど。つ。き。を。
○ まづまづ 源氏宿不。小。ま。ま。す。ま。づ。ま。づ。ま。づ。

○まわる。古今集やふりぬく浦小仮。まよす後
撰集小春。まよせ。まよせ。まよせ。まよせ。
又吹内。まよせ。まよせ。まよせ。まよせ。まよせ。
紫苑やね。波小こか。内。まよせ。まよせ。まよせ。
むかに。まよせ。まよせ。まよせ。まよせ。まよせ。
まよせ。まよせ。まよせ。まよせ。まよせ。

もれども四段とほきなまといゆりきなし

○あらうる源氏桐壺よつてたまわ。せてもとねぢや

○むちる和名抄小哽咽無須源氏もやのちにねぢ
もやうるをなぞりえだも

○古くも。あるながりうるあさせの形すすらゆく

うの宿泊よろぞうのよ加りの下二段のまよつてまよ

一まく萬段十五よいくじて君を伊麻勢豆とあくまゆド

